

幸せの丑年でありますよう祈りつつ  
新年のご挨拶を申し上げます



今年は「丑」年。  
モー吉と申します。  
よろしくお願ひ致し  
ます。

チヌー子ちゃん  
ありがとう

## さわらびの窓から

社会福祉法人 放泉会 統括苑長 瓜坂 恭子

さわらび苑開苑二十年誌を創刊して、早いもので十六年の歳月が流れました。先日その記念誌「燦燦」を久しぶりに開いてみました。役員、職員、勿論、私も若い姿がそこにありました。さわらび苑のあの場所この場所、様々な思い出がぎっしりと詰まったその記念誌を改めて愛おしく見る機会となりました。

瓜坂正之会長と私と両輪で、立ち止まることなく走り抜けた三十五年。折に触れ申し上げて参りましたが、私たちの周りは、いつも高く、厚く、優しく、そして熱い人垣に囲まれていました。ご利用者様は勿論の事、その人垣が私たちの両輪を動かし続ける機動力となり、励まし、励まされながら様々な局面を乗り越え、今日もこうして福祉の道をひたすらに歩むことが出来ているのだと「燦燦」の中の笑顔に胸が熱くなる思いでした。

冬晴れのある日、会長とともに所用にて三瓶山周辺に車を走らせておりましたところ、昨年新型コロナウイルスの關係で中止となつた、全国植樹祭が、今年の春、行われるとの看板を目に致しました。私たちがご利用者様の幸せを願い、走り続ける姿を優しく包み、見守ってくれたこの御山は今、すすき野が広範囲にひろがっています。これは、全国的にも珍しい風景とのこと。ここで私の心に浮かんだ句。

### 冬すすき 三瓶の原に 春を待つ

世界中の方々が、恐らく経験したことのない状況ですが、この冬すすきのように寒風に吹かれながらも、必ず巡ってくる春を、今はじっと待ちたいものです。

「サンシルバーさわらび」という新たな名のもとに、再び走り出した「さわらび苑」、ゆうイングさわらび、サンチャイルドとこれからも走り続けて参ります。さわらび苑の建物は昨年解体工事が終了し、今は更地になっています。建物はなくとも、今なお観音様や、川のせせらぎ、四季折々の草花や木々、鳥の鳴き声は変わることはありません。さわらび苑の姿を懐かしむ声も沢山頂戴しております。

その有り難い声にお応えするには!? さあ、皆の思いが育んだ、恵み深いこの土地をどう再活用しようか!? 睦月も後半に差し掛かった今も、毎日構想に胸を膨らませています。



## 御下賜金拝受記念のモニュメント

昨年二月の御下賜金拝受の記念にと瓜坂正之会長寄贈により、モニュメントが建立されました。晴れて五月に長久の地にサンシルバーさわらびが移転して来たのだからと、サンシルバー、ゆうイング、チャイルドの「三施設の真ん中」との思いから、ゆうイングさわらびの駐車場入り口に建立場所が選ばれました。

モニュメントには「福祉は人なり」を始めとする基本理念が刻まれ、道行く方々にも、放泉会のこれまでの歩みを導き、そしてこれからの歩みへの「道標」を広く知って頂く機会にもなったのではないかと思います。職員は、このモニュメントに見守られ、より一層気を引き締め日々努めようと精進して参ります。



こころはあい  
人は心

新年

昨年より世界的に広がっているコロナウイルスですが、当法人では無事に穏やかな新年を迎えることができました。

毎年恒例の年始会や新年会も、ささやかながら各事業所で趣向を凝らし、ご利用者様に喜んで頂けるよう行いました。とりわけサンシルバースわらびでは初めてのお正月でした。ユニットの構造上、一堂に会することは出来ませんが、各々のユニットでお正月気分を味わって頂きました。あるユニットでは“べったんべったん”お餅つき！お正月のお餅づくりを段ボール製の杵と臼で行い、賑やかに楽しい初笑いが出来ました。

また、ゆうイングの新年会では「感染症をやっつけろ」と題し、ウイルスの的をめがけ力いっぱい撃退！そして、終息祈願を含め疫病を追い払うべく獅子舞が舞い、頭を噛んで邪気を食べてもらいました。ここまで拡大したコロナです最後は神頼み！獅子に噛みついて（神付く）もらい邪気払いを願うばかりですね。

他にも花札やカルタなどお正月定番の遊びで楽しめました。このように家庭的な中にも暮らしに変化を感じて頂き、心に潤いをもたらすことが出来るようお手伝いできればと思います。



初詣

コロナの影響で色々な制限がありますが、「お正月に初詣に行きたい」との声を受け、初詣へ出かけてきました。行き先はもちろん地元元の氏神様である辻幣姫神社（土江神社）へ。

土江神社へは歩いて行ける距離にあり好立地です。コロナが落ち着き平穏な毎日が戻るよう、新年の無事と平安を祈願し参拝を終えました。



早く会いたいね～

ある晴れた日、数名のご利用者とのティータイムを玄関ホールで行いました。すると「キャッキヤ」と笑い声が聞こえます。玄関から出てみると、向かいにあるチャイルドの子どもたちが2階のベランダを駆けっこしている姿が…。「おーい」と手を振ると気づいた子どもたちもこちらに手を振ってくれました。

今まではごく普通だった事が、こんなにも遠くもどかしい光景となることを想像できたでしょうか。これまで毎月1回は行われていたチャイルド訪問も、今はコロナウイルスの関係で感染防止のため子ども達との交流も出来なくなっています。

コロナコロナで制限だらけの中、ほんの僅かなひと時でも喜びを感じられたのは、小さな子どもたちからの思いがけない大きなプレゼントになりました。



初春の祝膳

例年ない良い天候に恵まれて、初日の出を拝みながら車を走らせた職員もいたかもしれませんが…。今年初めての祝膳、元旦の朝食はおせちで始まり昼食には新理事長が御屠蘇で乾杯の音頭を取られました。ゆうイングの福朗ホールに穏やかで長閑な「春の海」が流れ♪♪～雑煮も頂き、お正月ムードいっぱいでした。

さあさあ、今年も地産地消を取り入れ幸多い祝膳を作ろうっと！誓ったキッチン職員でした。



春の摘み草粥

春の七草粥、言えるかな？…唱えるように「セリ・ナズナ・ゴギョウ…」と何度となく口に職員同士での恒例新年初のテストが始まります（笑）



まだまだ、お正月の気分も抜けない寒い朝に邪気を払い、万病を防ぐ習わしがある七草粥を頂きました。温かい七草粥は消化も良く、お正月で食べ過ぎた胃をリセットしてくれます。

春はまだ先ですが春の訪れを感じさせてくれた初春でした。



稲積庵



今年も多くのご利用をお待ちしております。

連絡先：0854-84-0101  
ゆうイングさわらび

## サンチャイルド

12月のお誕生会は、ゲスト山崎瑛里さんからステキな歌&ピアノ演奏のプレゼントがありました。待ちに待っていたサンタさんも登場し、子どもたちは大喜び！保育参観に来園されたお父さん&お母さんも一緒に楽しくダンスを踊りました。



新年を迎え、園児たちの元気な姿が戻ってきました。コロナ禍でのお正月休みでしたが、ご家族と過ごして楽しかった事などを笑顔でお話している姿に成長を感じます。

今年も子どもたち一人ひとりの思いや願いを大切に、子どもたちのもつ力を最大限に伸ばす充実した保育を目指して参ります。子どもたちの活躍を心から応援して頂けると幸いです。

応援のエールは  
「3つのS」  
すごい！  
すてき！  
すばらしい！  
やる気を引き出す  
魔法の言葉!!!



## OGからのことば

## ～さわらび苑に寄せて～

大平 三千代 (旧姓：松本)

私は、高校卒業後さわらび苑に入職し、22年間お世話になりました。

その間色々な資格を取得させていただきました。放泉会に看護育成制度が発足した際には、第1期生として2年間准看護学校に通い、准看護師の免許を取得することが出来ました。22年間、介護・看護に携わることが出来た経験と、本当に楽しい時間を過ごさせて頂いたことは私の宝です。家庭の事情により退職した今も様々に繋がりを持たせてもらっています。

この度、さわらび苑の移転にあたり、5月の解体安全祈願際には、OGも招待され皆でさわらび苑の解体工事が無事終わることを願いました。

その日から三瓶町のさわらび苑へ何度か足を運び、解体されるさわらび苑を忘れないよう写真に残していきました。徐々に解体されていくさわらび苑を見ながら青春時代を過ごした日々を思い出し、時には涙が出る日もありました。

しかし今、国道9号線沿いに、サンシルバーさわらびとして生まれ変わった建物を見るたび、更なる発展を続ける“さわらび苑”を、私は大変嬉しく思います。

さわらび苑に育てて頂いたお陰で今も、福祉の仕事が続けられています。これからも、さわらび苑で学んだことを活かして頑張っていきたいと思っています。

## 1ターソン大歓迎

ふるさと定住財団から見学の依頼があったのが、一年前の冬の声を聞いたころでした。神社仏閣を回るの好きな青年が全国を旅する中で訪れた大田市。

数ある神社仏閣の中で彼の心を惹いたのが国幣小社「物部神社」でした。

「物部の風に吹かれない!!」「物部神社の近くに住みたい!!」と名古屋から1ターソンを決意。こうして放泉会とのありがたいう縁ができたのです。

介護福祉士として経験を積んでいたの、当法人にとっては即戦力です。

同じく介護福祉士の奥さんと生後数か月の可愛い娘さんも勿論一緒に1ターソン。頼もしい限りです!

早速家を買って求め、リフォームすること。奥さんと娘さんを名古屋に残し、一足先に大田入りして、放泉会に入職した旦那さん。リフォームが完成するまでは三瓶町のサンシャインさわらび(法人職員保養施設)に仮住まい。夏には待望の奥さんと娘さんもめでたく大田市民になり同時に奥さんも放泉会の仲間入り。娘さんもサンチャイルド長久さわらび園に毎日元氣いっぱい通っています。

初対面では、「何故、大田?物部神社が好きなのは分かるけど、それで本当に1ターソンまでしてくれるの?他に何にもないよ、田舎だよ?ほんとにいいの?」と老婆心ながら案じていたのですが、そんな心配は一瞬で吹き飛ばしてくれ、すぐに放泉会に馴染んで、頼りになるスタッフとして日々福祉の道に進んでいます。

物部神社が繋いでくださったご縁に感謝!



遠い地元で寂しさはありますが、職場をはじめ支えて下さる方に感謝の日々です

## ユニットに変わって

さわらび苑からサンシルバーさわらびへ施設名称も変わり、9ヶ月が経過しました。従来型からユニット型へと…より個別ケアを重要視した対応ができるようになりました。入居者の方も環境の変化に大分慣れてこられた様子です。

ご入居者の方からは

“4階から見る景色が最高だよ。”“お風呂に1人でゆっくりと入れるなんて贅沢。”“1人部屋だから、安心できるし快適。”“隣の保育園の子ども達の姿や声がかわいい、元気になるね。”等という声がある一方、“暇だから、何かしたい。”“そこにイオンがあるのに、なんですぐ買い物に行けないの?”等という声もあり、入居者の思いに耳を傾けながら、快適に過ごして頂けるように、日々検討しています。

例えば「家に帰ってみたい」「オルガンを弾きたい」「初詣に行きたい」というご入居者の声をどういう風にも実現できるのか?ユニットスタッフで考えながら、各職種で連携し、個別に対応をしています。

コロナの流行に伴い、感染症対応が続き、なかなかご家族と直接の面会をすることはできませんが、ご本人、ご家族の希望に合わせながら、オンライン面会やガラス越しの面会も実施しています。

ゆうイング、サンチャイルドと福祉の拠点を置く、この長久の地で、ともに地域福祉の担い手となるように、建物は新しいですが、中身が大事!という事を肝に銘じて、スタッフ1人1人もバージョンアップできるように頑張ります。



## オンライン面会

遠方のご家族とは手紙のやり取りをされているTさん。「長男には、もう長いこと会ってらん。」と、最近さみしそうなお顔をされることがありました。

そこで、夏から導入されたばかりのオンライン面会の件を、市内にお住いの三女様に相談すると、さっそくご長男へ連絡して下さり、この度実施することが出来ました。

オンライン面会当日、タブレットの中に映るご長男の姿に、初めは驚かれたTさんでしたが、動く姿を見られ、懐かしい声を聞き、笑顔で涙を流しておられました。いつもはお話が少し難しいTさんですが、この日は普段以上に大きな声を出すことができ、ご長男と嬉しそうに話をされていました。また、同時刻に偶然面会に来られた三女様ご夫妻も加わり、ご家族4人が互いに顔を見てお話しされ、安らぎと和みのひとときとなりました。

オンライン面会后「すごいことができるな。あの子が喜んでおったけ良かったな。」と、ご自分のお姿をご長男に見ることができ、安心してもらえたということがTさんにとって一番の喜びだったようです。

この度のオンライン面会で感じたことは、ご家族とご入居者様が互いに安心感を得て、それが「生きる力」に繋がっていくものということ。

現在も全国的に新型コロナウイルス感染者が急増し、島根県内でも相次いでいることから、感染予防のため面会を制限させて頂いております。その為、窓越しの面会や今回のようなオンライン面会という形での対面となり、ご家族の皆様にはご不便をおかけして申し訳ございません。しかし、ご利用者様を感染から守るため、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ごあんない

当法人では“zoom”によるオンライン面会を行っています

面会制限期間中にオンライン面会をご希望の方は各施設までお問い合わせください

受付対応時間(月~金) 9:00~17:00

\*お手持ちの機器(パソコン・タブレット・スマートフォンなど)にアプリzoomのインストールを事前にお願ひします

\*通信環境により映像・音声に乱れが生じる場合があります  
\*予めご了承ください

## 善意のあれこれ

放泉会は地域の皆様に支えられ歩んでいます。誌面上ではありますがここに感謝の意を表します。ありがとうございました。



▲柿  
(季節の恵みに…)



▲トシボ  
(巧みな水引細工…)



▲新聞紙のごみ袋  
(一枚一枚心を込めて…)

## ふれあいホーム

昨年3月まで「デイサービスセンターさんべ」として使用していた三瓶町池田の元藤井邸を「ふれあいホーム」と改称し、地域の方々の様々な集いの場として活用していただけるよう整備を致しました。

毎週火曜日の10:00から13:00までケアマネジャーが滞在し、介護に関する相談に応じたり、集まった方同士、昔話に花が咲いたり賑やかな笑い声が広がっています。



## 編集委員のつぶやき

新年早々寒波に見舞われた令和3年。暖かい部屋の中から職員渾身の力作「ゆきだるまさん」を愛でるご利用者様。平和な雰囲気にもっとする職員です。



新型コロナウイルス発症のニュースから早1年の月日が経ちました。医療従事者の方々は発症してしまった患者様の命を守る為に戦い、そして、私たちは予防の観点に立ってご利用者様を守ろうと今、戦っています。毎年感染症が流行する季節には、ウイルスを持ち込まない!を合言葉に緊張の日々を過ごしていた職員も、1年に亘る長丁場は初めての事。「これ以上の自衛

生活っていったいどうすれば…」もしウイルスがこの施設に入ったらどうしよう」不安に心が折れそうになることもあったこの1年だったように思います。

しかし、不安を抱えながらも、施設の中はいつだって明るい雰囲気です。それは、やはり職員各々がご利用者様を守るという使命を受け止めているからではないでしょうか。

現状は、まだまだ続くことでしょう。けれどきっとこのコロナ禍が教えてくれること、コロナ禍から学びとれるものがあると信じ、我ら戦士は強く逞しく使命感とともに立ち向かって行くのです。

(編集委員：山下照子・小川 景・佐竹美香)